
ネオンが灯る頃

渡辺之介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネオンが灯る頃

【NZコード】

N0799D

【作者名】

渡辺之介

【あらすじ】

一年前に彼女を失った主人公。街のネオンの光で「一人で過ごしたクリスマスを思いだす。

(前書き)

短すぎます。気をつけてください！－笑

街にネオンの明かりが灯り始めた

「もうそんな時期か…」

白いため息が自然と君を思い出させる

僕は真っ白い雪の道を一人で歩いていた

去年は一人でこの道を歩いてたのに…

なんだか寂しくて…

なんだか寂しくて…

あの頃は楽しかった
二人で迎えたクリスマス

クラッカーを鳴らして… ケーキを食べて…

クリスマスソングを熱唱して… とにかく一人で馬鹿騒ぎし

て

今年は一人でクリスマスを迎えるよ

たとえ君がいなくても

君の分まで

クラッカーを鳴らして…

君の分まで

ケーキを食べて…

君の分まで

クリスマスソングを歌つて…

きっとまた恋をするから

今年のクリスマスだけは、君のことを思い出させて

たとえ辛くなつても

この先何度も思い出すと思つ

その度に僕は

泣いて 笑つて 怒つて

そして、君の喜怒哀楽の表情を思い出す

今はそう思つてゐる

たとえこの先

僕に彼女ができる

結婚して…

子供ができる…

それでも君を忘れられないと思つ

今までだつて何度も泣いた

たぶんこれからも泣くと毎つ

君のことを思い出すだけで涙が溢れるから

泣きたい時は便利だな…

そんなことをいつも思つ

でも……

街のネオンが僕の背中を押してくれる

だからまた歩きだす

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0799d/>

ネオンが灯る頃

2010年10月9日02時11分発行